推撰百人一首

全

仙人圖
文屋康秀
僧正遍昭

六歌仙
小野小町
大伴

近つ江八景
堅田落雁
唐崎夜雨
三井晩鐘
矢橋帰帆

比良暮雪
石山秋月
粟津晴嵐
瀬田夕照
夕日の
せきの
石山

紫式部

紫式部は上東門院
宮女房にはべる式
部とや。あるが帝の御
妃とや。あるが石山寺にて
源氏物語と書けり
うり給はゝ其後ふ
きぶるそうろうしかりけ
るゆゑ是ふじぶ式部
の名をなのるとぞ
一代の秀歌ありて
あるそ
幸ハ世ハの知る
ところなり

小野小町

小町ハ仁明帝の御時ふ
仕へ一美女にて容ちうつくし
きうへ人のおもはれくく
もうつくしきうへびなれ
奇人なりけれあるとき内
裏にて代歌合あるべし
とて水色紙とふ紙を
下されおのゝ歌ちあくふ何
と様とそう花紙にもこの
う様くあれ考へからんと
よくてなりしかべ考へき
秀歌なりとそ世の
傳ふ考へけるとぞ

武蔵
調布の玉川

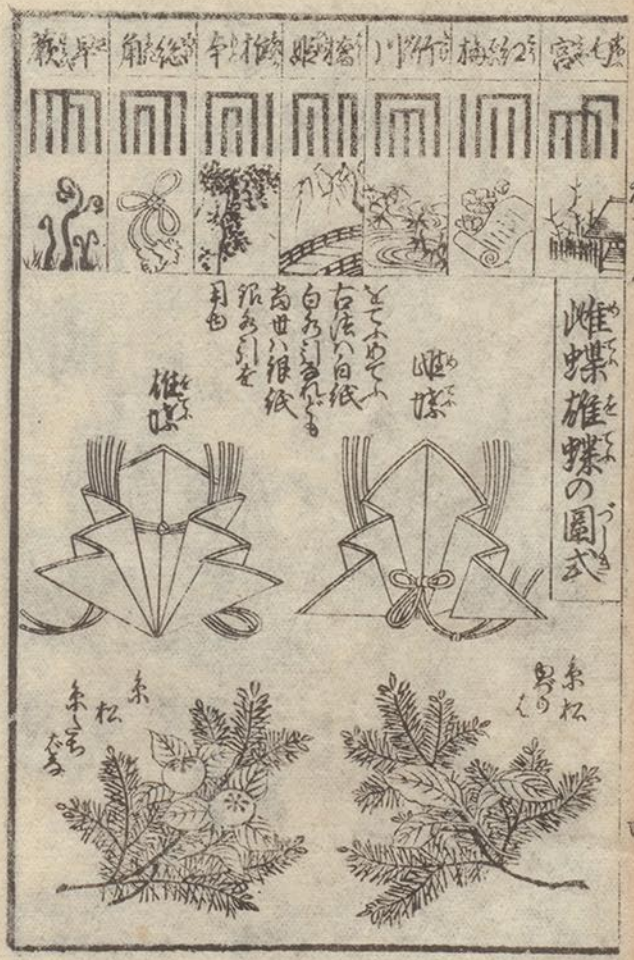
源氏五十四帖
十炷香の事
六玉川の圖
山城
井出の玉川

雫
蓮
生
屋
合
風
雲
瀬
士
凡士たるものハ智仁勇の三徳ふ心と乗れて我家を
その奉るもの
内と海
士の道と備るとのごとく
とまるべきハ一つハ書すべき右
奉ぜられ
陸奥
野田の玉川
みちのくの野田の玉川

女
菊
朝顔
蝶
蛍
常夏
農
農人の妻
まわふまの
助こそ
穀
摂津
衣の玉川

工
近江
野洲の
玉川
紀伊
高野の玉川

宮
梅
竹
橋
竹
牛
角
扇
雛蝶雄蝶の圖式
雛蝶
雄蝶
糸松
糸松


宮
木
東
月
舟
星
蛍
牛
鶴
源氏絵合終
瓶子
提
徳利

婚礼の図式

○結納の事

媒人は東へ行て結納を
のべ二曜の方へ結納
の祝儀を渡べし礼を
受て又再び裏へ戻る
夫婦の契約
先上巻一束の小紙一枚
の袍一領 織一
熟布一 羊羹白綾一
以上三手桂者七種七
荷たるべし 結小紙
一枚の袍一領

こん礼の時
よりあり
むこへの
みやげ物
小紙一束
上下一具
上下袴
下駄一
あり 二本
たくう紙
カ二 以上七種
のあり
又小紙の上書もあり
小紙上下ハあり
たくう紙へ
ひろげ
ふくさ
ふくさ
めるべ

百人一首 撰人 歌の 演解

○百人一首 ○天智天皇 ○持統天皇 ○山部赤人 ○在原業平 ○僧正遍昭 ○陽成院 ○在原氏の人 ○文屋康秀 ○壬生忠岑 ○坂上是則 ○紀友則 ○凡河内躬恒 ○紀貫之 ○清原深養父 ○文屋朝康 ○藤原敏行 ○藤原興風 ○紀淑望 ○紀淑人 ○藤原兼輔 ○源宗于 ○源重之 ○大江千里 ○藤原定頼 ○藤原実方 ○藤原公任 ○藤原道信 ○藤原義孝 ○藤原高光 ○藤原伊尹 ○藤原朝忠 ○藤原敦忠 ○藤原兼盛 ○藤原元真 ○藤原実定 ○藤原俊成 ○藤原定家 ○藤原家隆 ○藤原雅経 ○藤原秀能 ○藤原知家 ○藤原為家

持統天皇

柳本人麿

山邊赤人
田子の浦よ
うち出でくれば
白妙の
雪もありけり
猿丸大夫
奥山に
紅葉ふみ
分け
なく鹿の
声聞く時ぞ
秋は悲しき

中納言敦忠

安倍仲麿

素撰法師
家居を
志のそむ
世俗うちふと
人をいふなり

小野小町
花の色は
うつりにけり
いたづらに
わが身よにふる
ながめせしまに

輝九
逢坂乃関

泰義堂
和国のけ
十番
漕

僧正遍昭
天つかぜ
雲のかよひ
路
とじよ
乙女のすがた
しばしとどめむ

陽成院
筑波根の
峯より
おちる
みなの川
恋ぞつもりて
淵となりぬる

河原左大臣
陸奥紙

光孝天皇

中納言行平

在原業平

侍従

猿方百ケ條

文屋康秀
吹からに
秋の草木
しをれぬれば
むべ山かぜを
あらしといふらん

大江千里
月見れば
ちぢにものこそ
かなしけれ
我身ひとつの
秋にはあらねど

菅家

三條右大臣

春道列樹
山川風の
かをるを
あらしハ
あつまるを
あぬ
みちのくり

紀友則
久かたの
ひかりの
のどけ
しら
ちるらん

清原深養父
夏よ夜は
月やとるらん

文屋朝康
白露を
風の吹しく
秋の野は
貫きとめぬ
むすびもあへず

平家國

壬生忠見

清原元輔

中納言敦忠

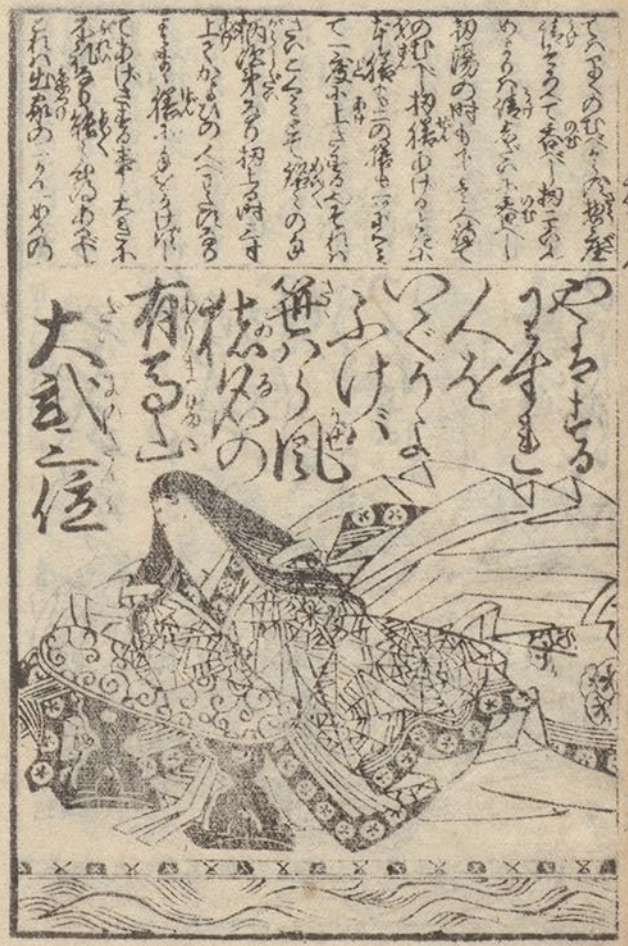
中納言なるた

藤徳公

源重之

大中臣能宣

命


やちまたの
つきもまし
人を
いぐうよ
ふけば
無ひら風
はなのの
有るか
大弐三位

赤染衛門
やすらへ
寝ぬ夜
小夜ふ
かくまでの
月を見
かな

清水網元

太夫大夫雅
今はたゞ
ねとしの
あえ
ぬ
ばかり
なる
ばかり
いとすぐる

檀中納言定頼

相模

大網言優信

初甲ふあるを樂とろひ又一こんのそ初こんをそろひ初酒をろひて一こんのむべーそもそこ九度といふ作法のぎ式

○陣の時の肴ぐ

仕やうの傳

先ろろ分をろひて一こ

うちあらひとろそひろき

そろこんあ一こん初こんよ

とろひて一こん初一度ふこ

ぬで作ろろて千一九

度とろひこん初ろろそ

ぬ

○出陣の時の肴ぐ

のかず

源兵衛

九郎左衛門

七夕は和歌
後德寺光大臣

乃国法師

実方朝臣像

西行法師

百歌仙

三芳野の
月
秋風
さよぬけく
なつかしく
ふるを
ふるを

最大須賀
おやかたの
民を
おやかたの
つかふ
すみ
ぬりそで

入道前太政大臣
花さそふ
あらしの
庭の
雪
なりけり

權中納言定家
来ぬ人を
まつほの
浦の
夕なぎに
焼くや
藻しほの
身もこがれつつ

開明小説　春雨文庫　第四編より　近世の烈婦孝女乃傳説を引録し出版　記事頗る面白き珍書なり

松村春輔編輯
復古夢物語　初編より八編まで出版　建八明治太平記の前篇にして嘉永六年亜米利加使節浦賀へ来航以来明治元年伏見戦争迄を記す　面白き書也

和田定節編輯
参考鹿児島新誌　半紙本　初篇より七篇迄全部十三冊　此書西国征討の始末を詳細に記せる第一の実録なり

東京書肆　大島屋　武田傳右衛門　新橋二丁目二番地

1001975505

東京書報

大倉書店

[illegible]

[illegible]

[illegible]